



三十一

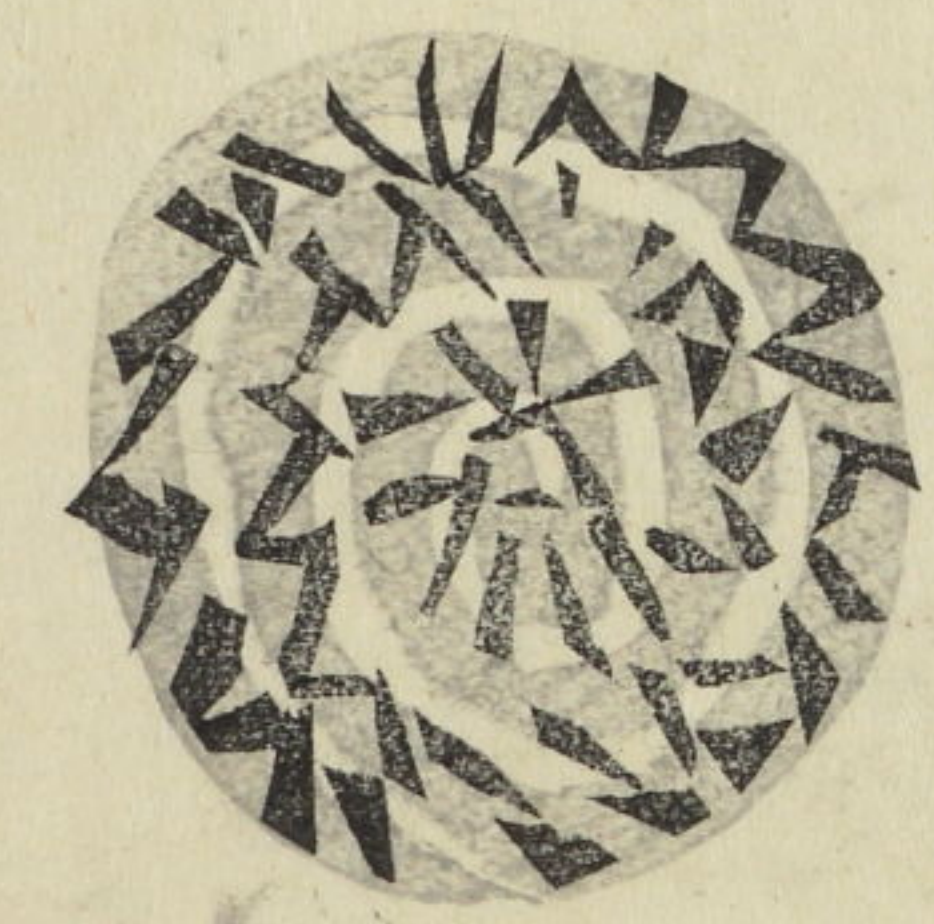
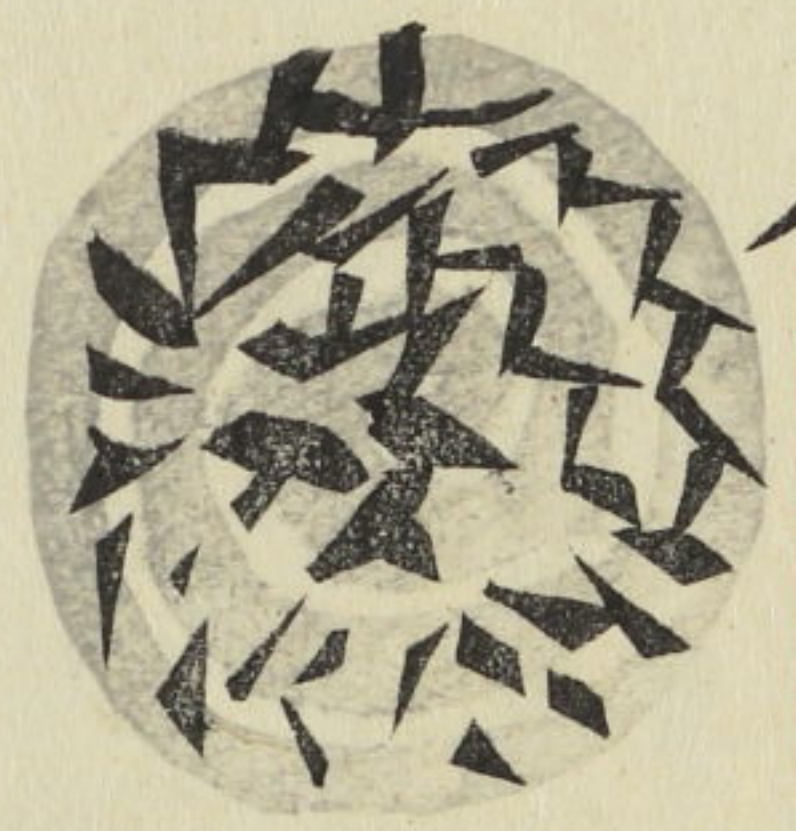
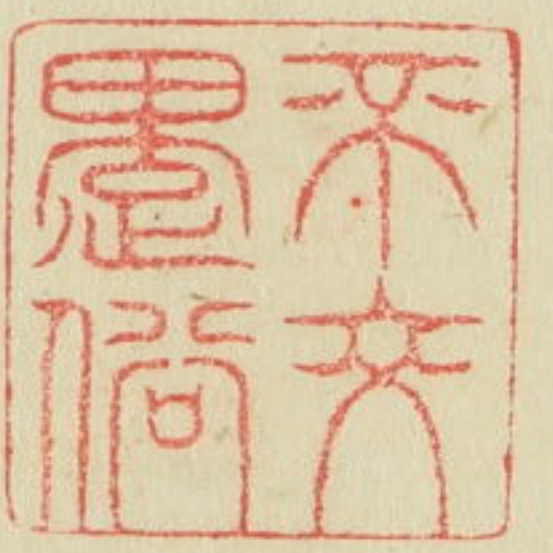
飛陽子逸人君のあつたつた
移移山人と稱されたる佳風の
唐室の子孫の氣韻生動を
あつたつたつと酔月を畫
えつたつたつたつたつたつた
名もあつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつた

あつたふりかたしーのふらあ
あつたふりかたしーのふらあ
あつたふりかたしーのふらあ
あつたふりかたしーのふらあ
あつたふりかたしーのふらあ
あつたふりかたしーのふらあ
あつたふりかたしーのふらあ
あつたふりかたしーのふらあ
あつたふりかたしーのふらあ
あつたふりかたしーのふらあ

淡海の子者白氏識



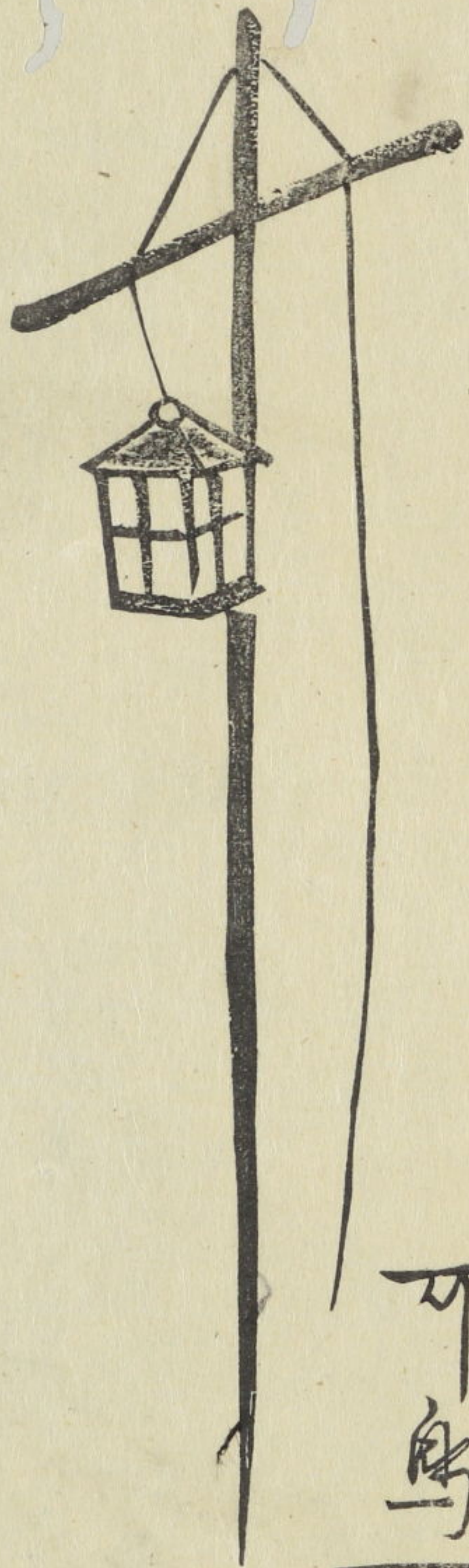
心動 逸人



世の
心動
逸人

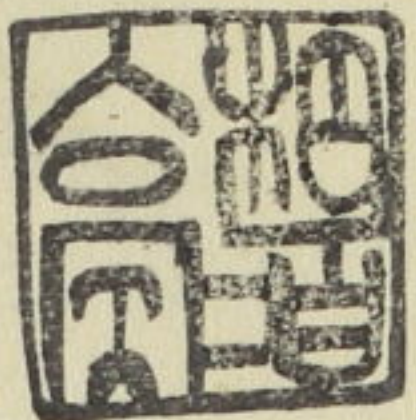
心動

筆の如く
切
燈籠



浴

可鳥



毎々此の如く
筆の如く

鳥可



本草

白根

白根

白根

白根

白根

四四



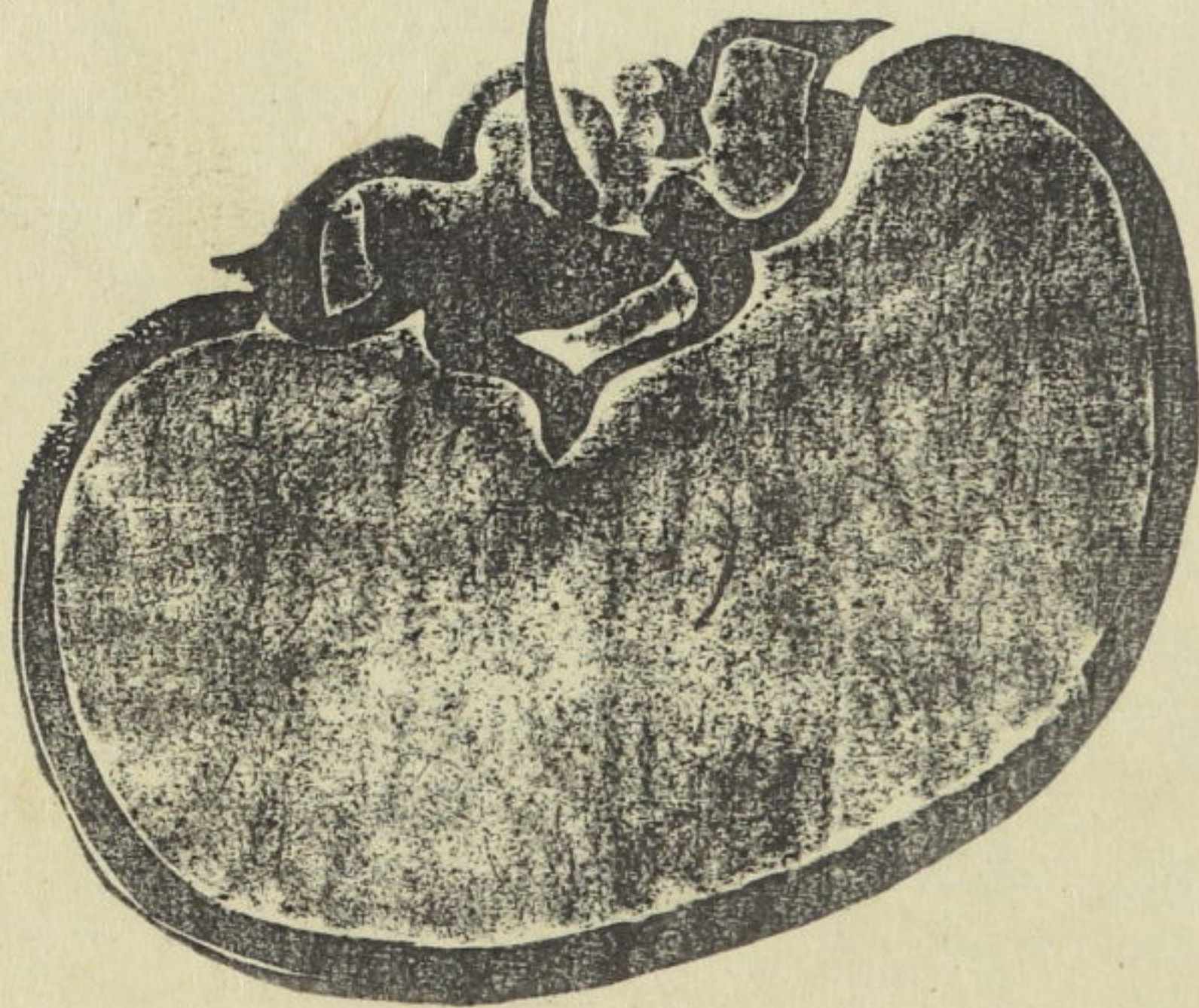
白根
白根

本草

白根



白根



白根

すまは、こゝに性、そののそ、

始、おきた、る、



ふらふら、

人、も、事、也、

ふ、の、山、

法、
就、つ、可、



讀心古書

福

子

了

門

口



子
子
子

常
見
る

嘉
也

あ
ま
り
な
し



里
中
鶴

里中鶴

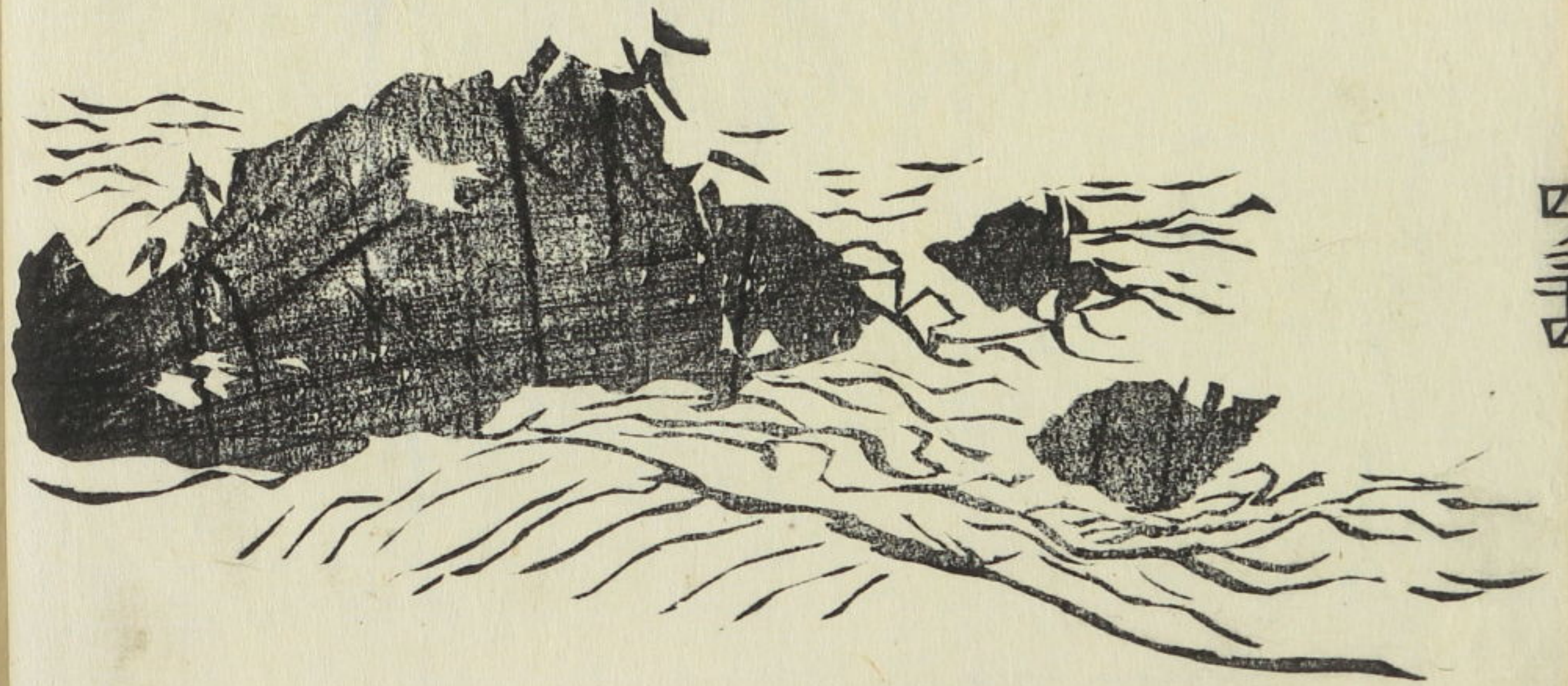
吾乃晴

千々
吾拂

乃乃

乃乃

海の



蘭乃香

汝之琴



那乃乃の月茶屋

曲
江
也

智
叟



浪の舟たれ

をす
羨



酒
飲
心

春
さ
ら
し



き
ら
り
吹

四
日
市

南
也
子





教柳山、小

系せ多

流り

種玉

花



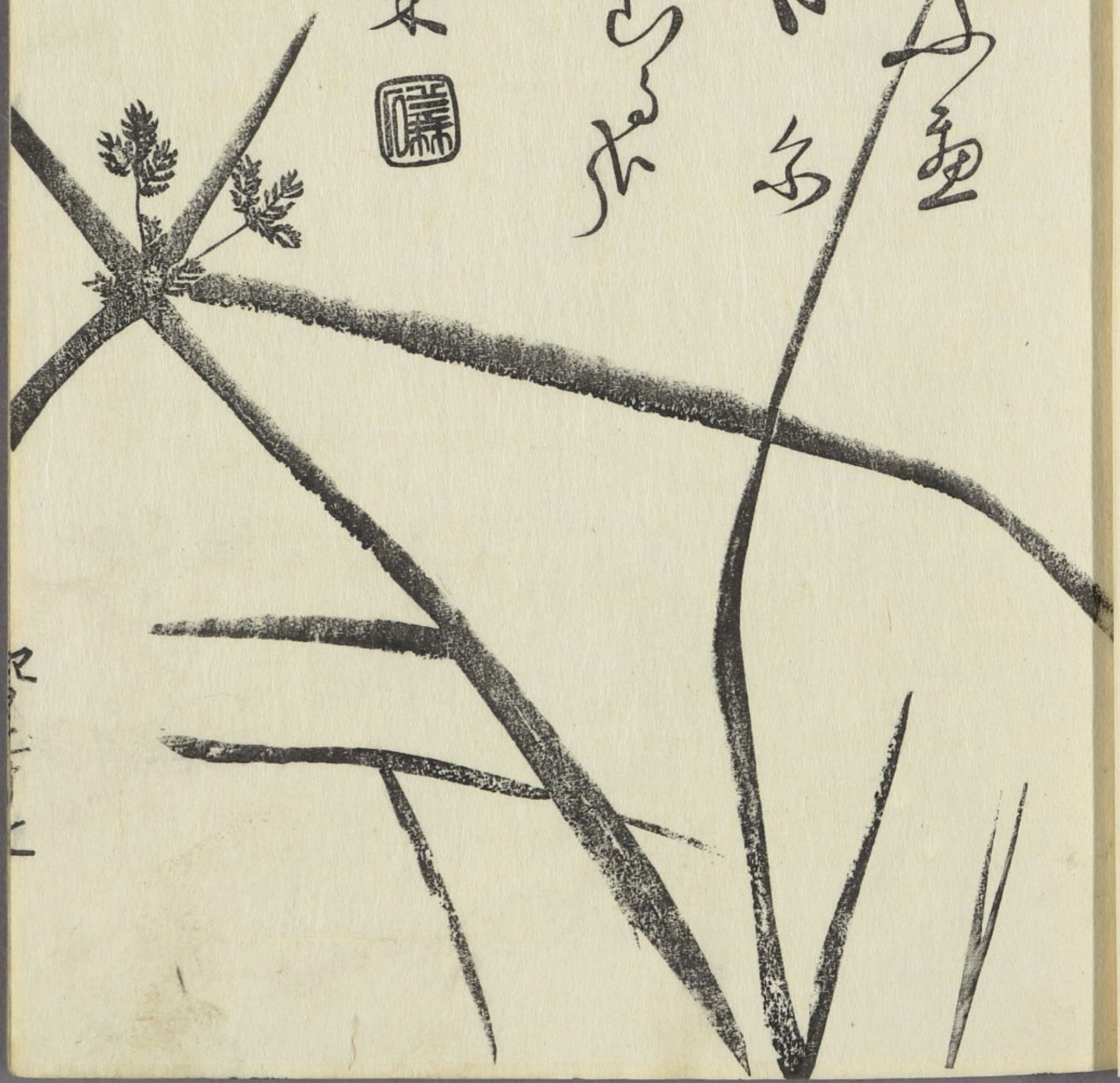
四十一

秋乃中、魚

帝、志、多

系、を、せ、心、成

治
丸、兼



四十一



朝電也

夕

朝

陣の火



後子
我福

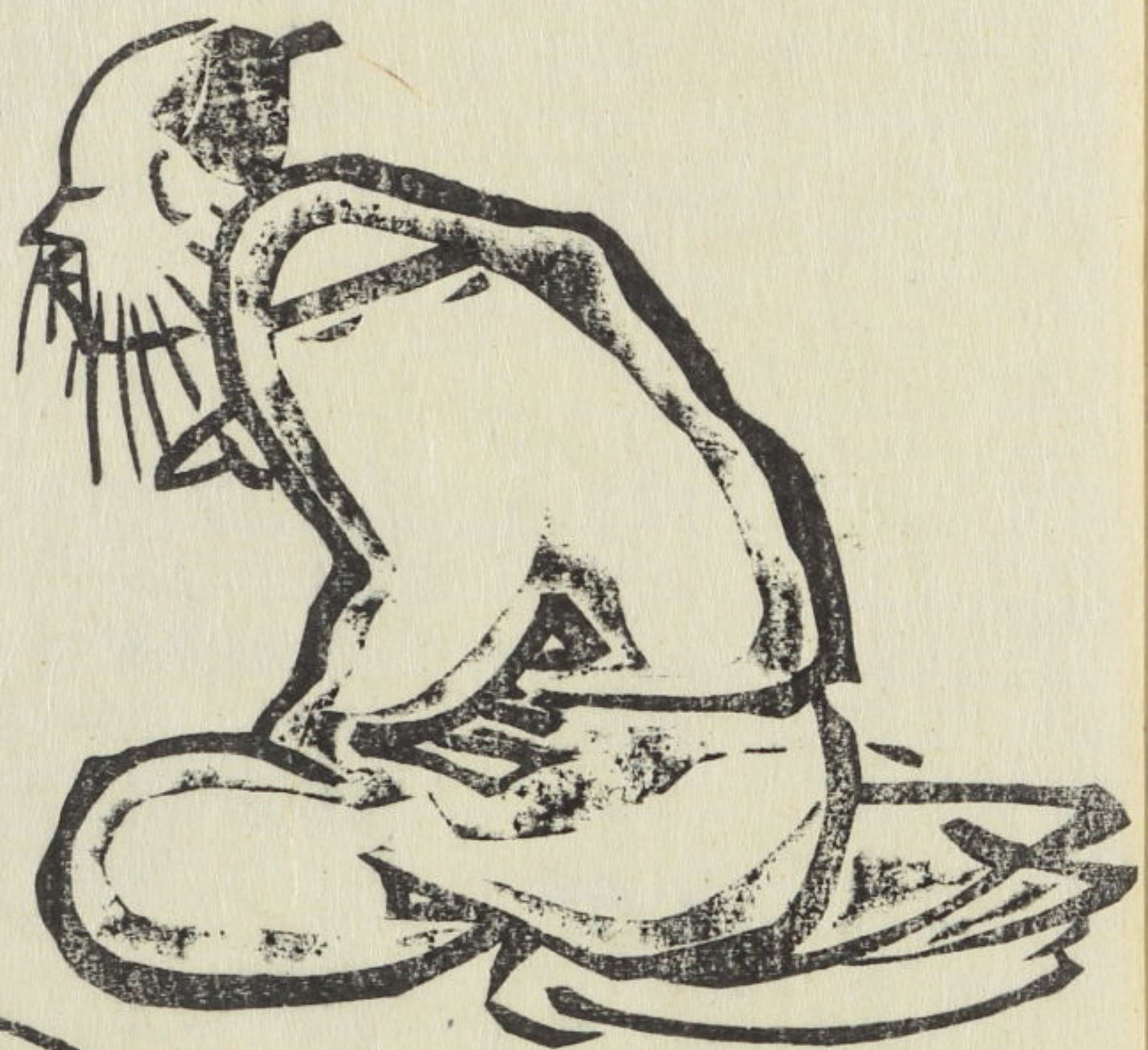


月江

子

鹿

やうにうらなふ



山如夷



二五五

散柳

恋の夜帯心

あの上

海老原 彦



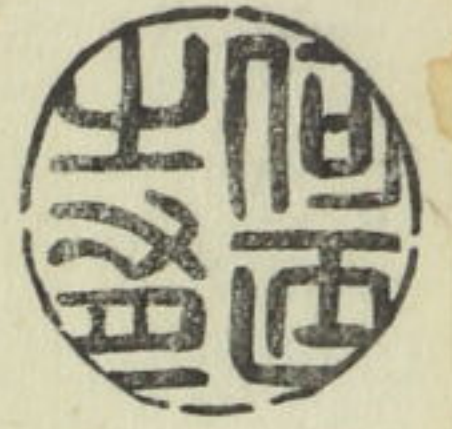
四ノ九

春のついでに
春のついでに
春のついでに
春のついでに

巴里



巴里



咲て
の好ま

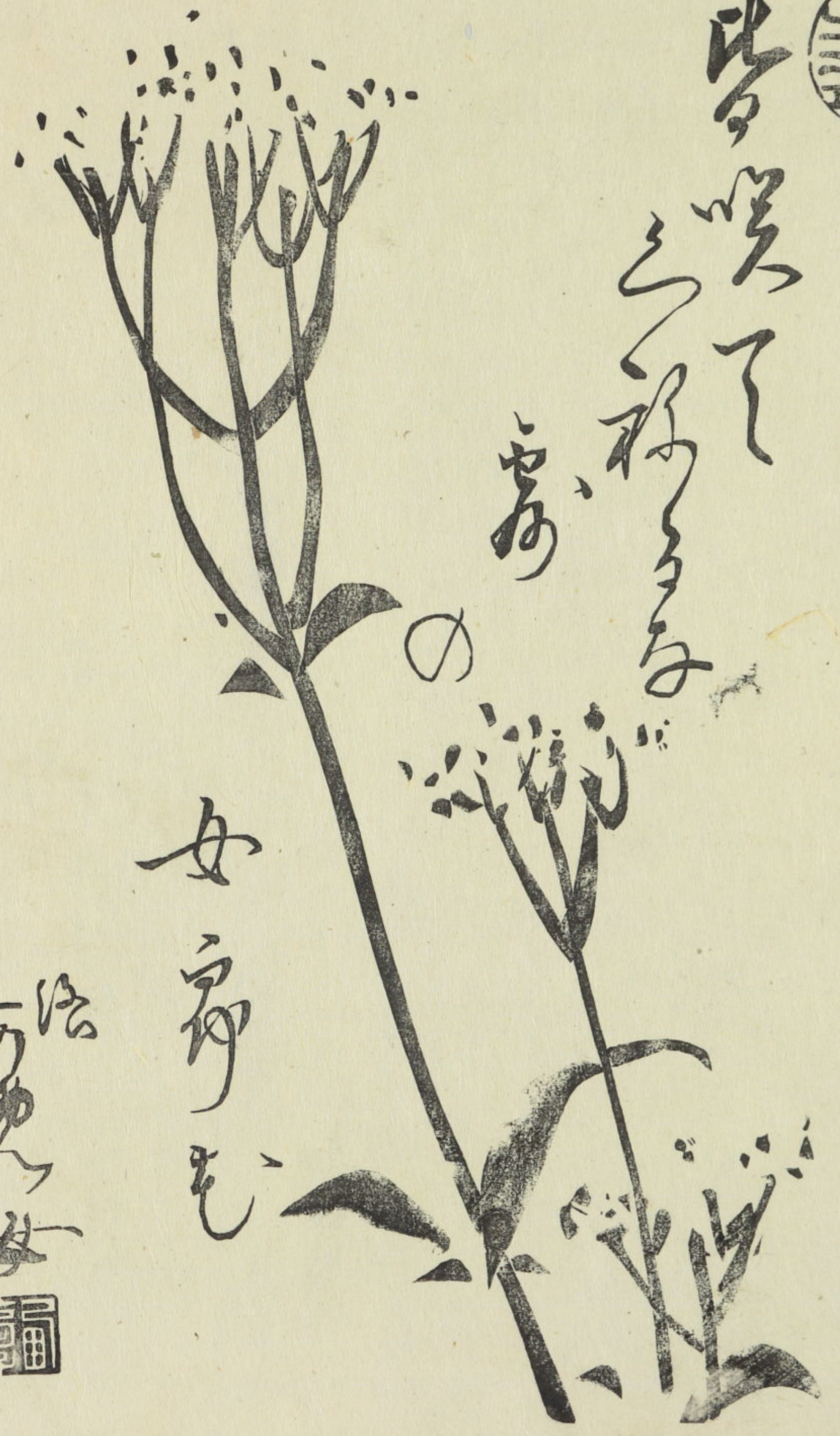
あ

の

花

女
家
も

は
あ
女



り
社
あ

社
あ

あ

月
亭

和
の
名



1004

むきー地や
 小雨
 たのしみ乃
 為月梨
 芸人



四四一

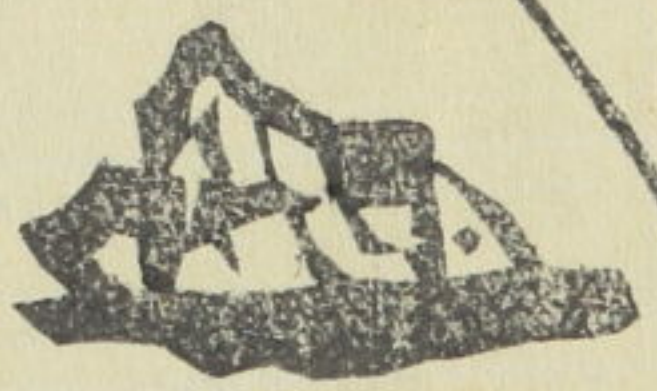
飛石

一葉



縮志を

りて



四四一

湖水

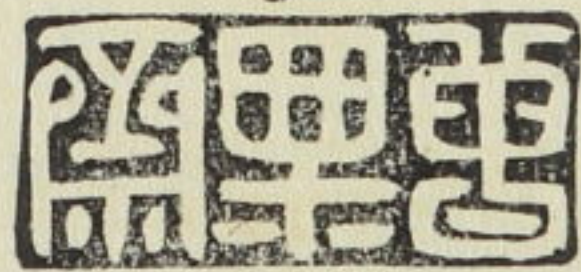
舟



日本の漆

治善
曾志之

寛子



四二五十一

由みくわや

菊の香

海む

軒の雲

杜曉



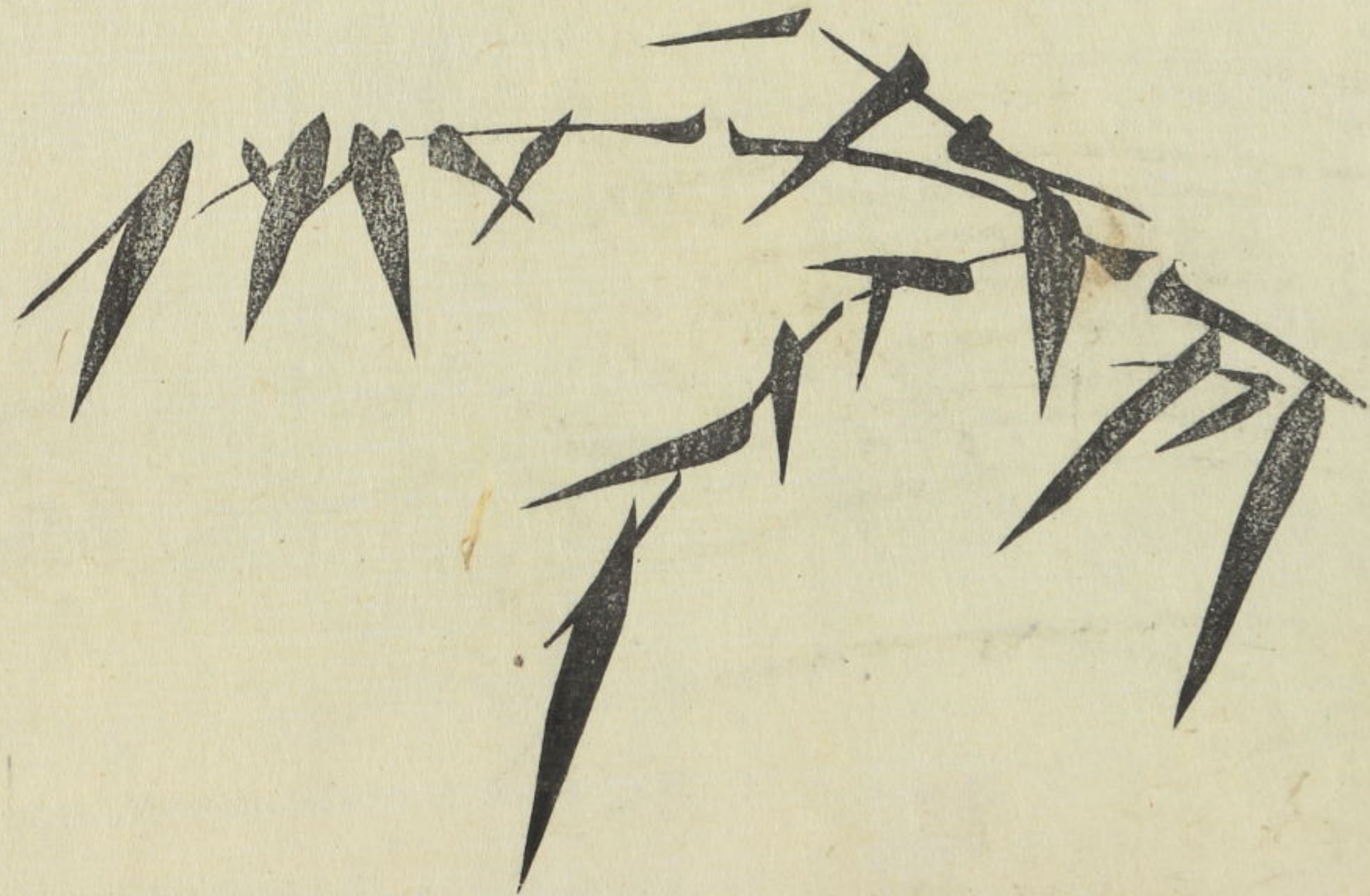
夜半辰婦ける

係る

あくる

月の水

露竜



七夕の松を

めく

あくる

伊勢

蓮園松林



高松の
 赤松高
 松高
 高松



四八四

高松の
 赤松高

十三八

高松
 高松
 高松



四八三



茅の穂

新 穂

らふり

穉 穂



四十四

二々の月



はる

のらたま

けし

栞

式



成 治
成 治



四十四



唐紙

法あるものなる

まじり

楳園

取



四角

不鞆の

頭

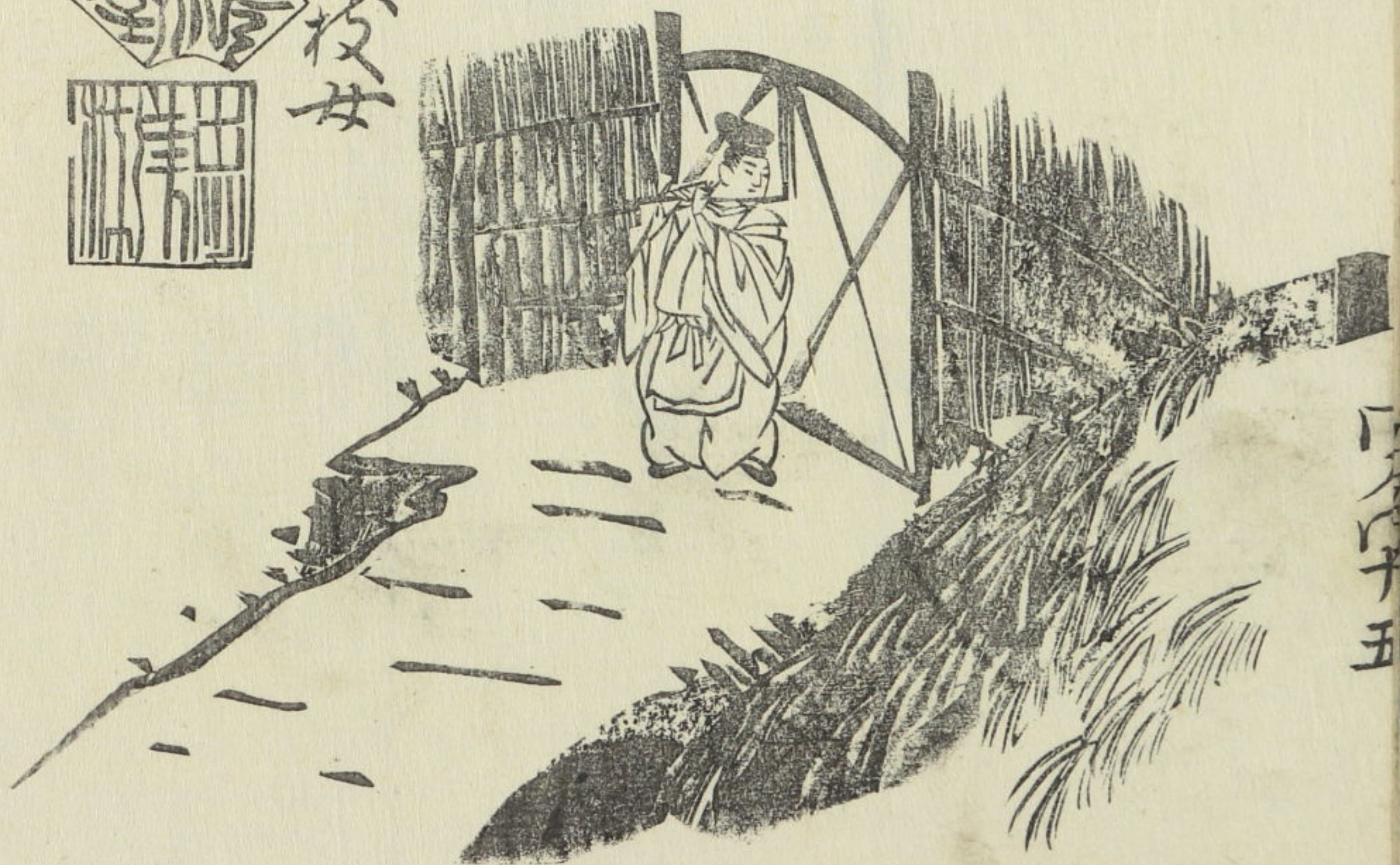
御書

こぼれ

と

對

志津枝女



五

福妻や

耳を

おまじり

啞の類

河列津田

我辭



こゝ
震水

勢ししこく

山峯つも

成にりり



必月の世を
文筆
月...
...



山陰

小舟

七

...

...



...



山杖山

西
丘
の
中
切
て
出
す
寒
今
は
一
と



あ
ら
う
か
ら
ち
ら
石
壁
の
中
に



花
巻
巻

朝日亭

る風乃ちそ

こしらへんよ船めし

アキ
孝介



舟の

網をさるる

鴨

群山





心月お、ぬき。

影をわするは

七峰 松岩



小殿の庵のまきの
早や

二ツ工

かゝるのそつれ
して御まきよ
京 茶更

世にのりふかや年の夏

松葉

松の緑をも 夕暮の空

書かすひたり 秋夜

冬のある人 鯨比

うらなひのしほし 心地は

久門の秋のまじりて 冬の月 湖 湖

葉はくさくさ ぬるまじりて 兵庫 有 雁

春 あふぬち

あつた あつた 三佛 あつた

あつた 年九家

あつた あつた 機 あつた 竹乃窓 あつた

九六

香の若房もあはれなま
三
志

まの中へたふち
吾楸

出さうなまの月

あはれに白のそれ
れ凡

ゆく 枯雪の如

十月廿二日
撰武庫
相字

けり 園の先

鳥のまら梅雪ん
の市

の市

もふら雪も
白戸

冷い身一様
せとらふ

茶のこゝろや
いほらたりし

持ぬ糸ナニハしつゝ花ハるる
持ぬ糸ナニハしつゝ花ハるる

傾城のこゝろは
似たり冬ハの月ハ 桃栗

し
チリセニ
響るる

白糸

宵のつとめ
啼ニ子方ハ 伊吉

教寺町

板橋小や

りふさ

東雅

絞くを雪聖婦ふ 花実坊

和能静 七初李

くはふ

志く進ても能記都る 十六 雀里

名様より申のおみ

あふ 里鶴

左はあ那

之が(名車と名乗や能記) 三

了月

美らきもの 十二 霞中

あまのこころ 梅園

あま

高きうきく

瑞きく

日きく

坂本

千代

野鷹乃あはれ

系

梅里

吾婿あまに哉

夕暮者乃

何日か

山守ふハ梅久

毛くく

三ノ

笑波

枯屋の風

本印

氏新

峰の峰乃夕日

時かてき急く振る

葦盞舟

とる月字

空い子い子い子
そおおい子い子

不詳

大島不詳のあま
不詳

梅のあま牛は系

かかきこい紅茶

記石

以川の系 少知あま

あまい子い子

不詳、あま邦

雪の系 是よなきはあ
是より月亭

そこの梅打魚

枝まがらうはあま

不詳

新會も有ハ

喜共

心より愛おしく

あはれ

喜あ青

初竹
素雀

初書尺何地記えしうたうれ

東女

わのからり

草

新のからり

面白さ

代ある人

馬多

金屏に雲世心り

種玉

おこねまきし みんまね
よのまきまき 塔
三木

うさぎ ハネ子

下ちちとら

おんたのちちとら

鳥比時

知母

おんたのちちとら おんたのちちとら
おんたのちちとら おんたのちちとら



綱目や一束の筆と初耐

おんたのちちとら

おんたのちちとら

おんた

山 以 小 多 也

女子

ちり 且 枯 花

雀 亦 多 矣

翠 雀

雙 鳥

ふ 二

空 方 山 乃 子 矣 崎 嶇 乃 也 知 の 者

五 十

春 風 矣

垣 根 花 乃 也

春 人

多 矣

暖 乎 流 之 也

浪 也

一 之 多 矣

吐 乎

本 原 矣

乃 矣

自 日 是 乃 十 二 山 也

おのあふ
うら流し
あのみ
浪花
あふらさ

おのあふ
うら流し
あのみ

あのみ

茶ねあふ

あのみ

あのみ
あのみ
あのみ

白南

あのみ
あのみ
あのみ

あのみ
あのみ
あのみ

あのみ

あのみ
あのみ
あのみ

あのみ
あのみ
あのみ

あのみ

以々京
里也
雪舞
舞之
半不流
身其培

大高の
是踏ふて
刺之書
星頂

高も来
ふか
雪結
行
こ
う
紙
還
古

